



## 変わる学校現場

# 令和8年度 新潟県内の学校再編①



新潟県教育委員会では、少子化や社会の変化に対応し、県立高校の配置・募集学級の最適化や特色ある学校づくりを進めるために、「令和8年度～令和11年度 県立高校等再編整備計画」を発表し、県立高校等の再編を進めています。高等学校のほかにも、県内でこの4月から開校、再編する学校がいくつかあります。そこで、令和8年4月から始まる内容について、いくつかご紹介いたします。より詳細な情報につきましては、県教育庁高等学校教育課が県庁ホームページで公開しております「令和8年度～令和11年度 県立高校等再編整備計画」や、「新設校に関する準備等について note」などをご確認ください。

### 「県立碧高等学校」が開校

県立新潟北高等学校と県立豊栄高等学校を統合し、単位制による全日制普通科の高校として、県立碧（あおい）高等学校が開校します。校名は公募を経て決まりました。4学級の募集となり、デザイン、健康科学、こども福祉など、多彩な学びの選択肢を備えた学校になることが予定されています。校章や制服のデザインも決まり、校歌は、長岡市出身のシンガーソングライターの琴音さんが作詞・作曲を行うことも発表されています。4月の開校に向けて着々と準備が進められています。

### 県立十日町高等学校に「クロス探究科」を新設

令和8年4月から、県立十日町高等学校に新たに「クロス探究科」が設置されます。文系・理系の区別にとらわれない教科横断型のカリキュラムで、外部機関（大学等）との連携や探究活動を強化し、問題解決能力や思考力の向上を目指しています。クロスには、文系×理系の融合や研究機関との連携、十日町の「十」(cross)、十日町の伝統産業の織物(cloth)などの意味合いも含まれるとされています。独自のカリキュラムに期待が高まっています。

### 「県立柏崎高等学校附属中学校」が開校

県立柏崎翔洋中等教育学校前期課程が募集停止となります。県立柏崎高等学校附属中学校が開校します。附属中学校からは、入学者選抜なしで柏崎高等学校に接続し、高校では、他の中学校からの入学生と同じクラスで学ぶことになります。6年間の継続的な教育で、高校SSHと連携し、総合知を活用することで、国際的な感覚を持ち、社会の発展に貢献できるリーダーの育成を目指しています。柏崎高等学校と同様に制服はなく、昼食は、給食に近い形で提供される予定です。令和8年度の募集学級は1学級ですが、12月に行われた入試倍率は1.57倍となり、定員35人に対して55名の出願がありました。こちらも開校の準備が進んでいます。

### 不登校の児童生徒を対象とした「学びの多様化学校」の設置

令和8年4月に、県内初となる公立の「学びの多様化学校」いわゆる不登校特例校が、上越市と小千谷市で開校する予定になっています。フリースクールなどとは異なり、学校教育法上の「学校」なので、卒業すれば通常の小中学校と同じ卒業資格が得られます。柔軟なカリキュラムが可能で、授業時数や登校時間などを児童生徒の実態に合わせて調整したり、独自の教科を作ったりすることも可能です。原則として年間30日以上の欠席がある児童生徒のみを受け入れます。

新潟市では、新潟市立明鏡高等学校内に義務教育を受けるべき年齢を過ぎた方のうち、様々な理由によって義務教育を修了していない方や、不登校などの理由により義務教育を十分に受けられないまま中学校を卒業した方を対象にした夜間中学校の設置が、令和9年4月の開校に向けて準備が進められています。

### おわりに

少子化の進行で、この5年のうちに閉校（統合）となった県内各市町村の小中学校は30校を超えているような状況です。高度情報通信社会の進展など社会構造の変化も急激に進んでいます。地域の活性化には子どもたちの存在が欠かせません。これから社会を背負っていく大切な人材の育成に、知恵をしぼっていかなくてはならないときが来ています。（次号に続きます。）

